

ＮＨＫ党の舞台裏

村上ゆかり

Ｎ党とは何だったのか？

立花孝志とは何者なのか？

異形の政党の全内幕を公設秘書が完全独白！

NHK党の舞台裏

村上ゆかり

星海社

406

SEIKAISHA SHINSHO

序章

私はいかにしてＮＨＫ党秘書となったか

２０１９年6月、それまで政治になど全く興味関心がなかった私が、なんと参議院選挙に立候補することになった。しかも、「ＮＨＫから国民を守る党」という極めてマイナーな政党からである。

選挙があれば必ず投票には行っていたし、政治関連の報道も毎日目を通してはいた。しかし、それだけである。自民党と民主党には何となくのイメージがあったが、それ以外の政党については見たことはあるけどほとんど知らなかったし、選挙のときも配布される選挙公報と直前に見たニュースで投票先を決めていた。いわゆる無党派層のひとりだ。そもそも、政治に関心を寄せる重要さなんて全く理解していなかった。

そんな私が、国政選挙に立候補することになるとは。

そもそもＮＨＫから国民を守る党自体、それまでの私なら、決して出会うことのなかった政党だ。それがなぜか、「絶対落選するから。立候補するだけだから」という説明で仕方なく立候補することになった。今から振り返ると、なぜ立候補したのかとさえ思う。

この提案を当時の私は何度も断った。当然だ。国政選挙の候補者になるなんてそれだけで

嫌である。陣痛促進剤を2回も打ち、それでも赤ちゃんが出てこられず心拍低下して緊急帝王切開した4月からまだ半年も経っていない。出産後、3時間とまとまって寝られたことは1日もない。睡眠不足すぎるし、まだ身体もつらい。こんなときにわざわざ私が立候補しなくてもいいじゃないか。はじめての出産育児で育児に専念したいと思うのはネガティブでもなんでもなく、ごく自然なことだろう。

しかし一方で、国政選挙へ立候補する機会はまたとない機会ともいえる……押しに弱い私は引き受けてしまった。引き受ける前にリスクを考えたほうが合理的なことはわかっているが、機会といわれると弱い性格の私は、いつもまず引き受け、それからどうしようか悩んでしまう。

結果的に私は立候補した。

やるからには「やって良かった」と思えるようにやりたい。選択を後悔しないためには、選択後の行動がすべてである。そう考えてYouTubeチャンネルの立ち上げ、Twitter（現X）のアカウント開設、約1週間にわたる密着取材を含めたメディアからの取材対応、公開討論会への出席……できることは前向きにやってきた。

当然に落選したが、選挙が終わってからも、ＮＨＫから国民を守る党の活動に可能な範囲で関わりながら、日本の政治について少しずつ学んでいった。その結果、これまで全く興味

を持っていなかった政治にどんどん興味がわいてきた。政治は面白い。もっといろいろ学ぶ機会が欲しい……。

そう思い、２０２０年5月ごろ、「ＮＨＫから国民を守る党」（当時）の参議院議員であった浜田聡さんへ参議院議員会館でのボランティアを申し出てみたら、浜田さんから前向きなお返事が来て、会館のお手伝いをいくつかこなすことができた。まず地方議員を目指した方がいいというアドバイスも浜田さん以外の複数の方からいただき、約3年先の地方議員選挙の公認ももらった。ただ育児の大変さは変わらないし、身体は一つしかない。今はようやく少しずつ身体も回復してきたけど、子育ても相変わらず大変だし、できる範囲で浜田さんのお手伝いを続けながら政治を少しずつ学んでいければいいかと思っていた。

そんな矢先、とんでもない連絡が浜田さんから届いた。

「私の公設秘書になりたいという意思があれば最優先で検討します」

２０２０年8月30日のことである。２０１９年に出産した我が子はまだ1歳で、子育てに追われていた私の心身はボロボロだった。

そんなときにいきなり舞い込んできた公設秘書の話。「こんな機会はもう訪れないかもしれない」――一瞬よぎった言葉。もう答えはおわかりだろう。機会という言葉が頭をよぎってし

まった私は、家族の承諾を得ていつものスタンスでお引き受けしたのだ。

こうして、嵐のような政党であった「ＮＨＫから国民を守る党」の内部で、すさまじい行動力を有する立花孝志さんと浜田聡さんのもと、文字通り、戦争のような業務が始まった。

この選択は結果的にはとてもよかったと心から言える。しかし、二度と同じ経験はしたくない。

立花さんが率いてきたＮＨＫ党は、従来の政治の常識にとらわれない手法で国政に進出した政党である。２０１９年の参議院選挙では、全国の選挙区に37人の候補者を擁立し、得票率２％以上という政党要件を満たして国政政党となった。その後、参政党やチームみらいといった新興政党も、ＮＨＫ党と同様に参議院選挙で得票率２％以上を獲得して国政政党となっている。ＮＨＫ党がこれらの政党にどれほど影響を与えたのかはわからない。しかし、参議院選挙で得票率２％を獲得し、国政政党となる戦略を実際に成功させたＮＨＫ党は、その後の新興政党の動きを考えるうえでも、興味深い先駆的な事例ではないだろうか。

ＮＨＫ党は数々の騒動を経て、現在は党の活動を休止している。２０２６年２月、勾留（こうりゅう）中の立花さん自身が党の休眠を決め、再開の見通しは立っていない。

「休眠」という言葉どおり、私は立花さんの試みがこれで終わったわけではないと思っている。「ＮＨＫ問題」も解決していなければ、立花さんが政治の世界においてこれまで及ぼして

きた影響がなくなったとも思えない。今後どうなっていくのかはきっと誰にもわからないが、秘書という内部にいた立場の視点からＮＨＫ党の活動を記録として残すことには、今の日本の政治を考えるうえでも少しは意味があるのではないか。

私は立花さんと浜田さんに心から感謝している。お二人の方針によって、私は本当に自由に仕事をさせていただいたからだ。政治についてほとんど何も知らなかった私に、国政の現場という大変貴重な経験を積み、政治を学ぶ機会を与えてくださった。大変に恵まれた環境だったと思う。私はお二人の方針すべてに賛同していたわけではないし、疑問を感じることも少なからずあった。それでもなお、秘書を務めた約４年半は、私にとってかけがえのない経験だったといえる。

本書は、私が所属していたＮＨＫ党（ＮＨＫから国民を守る党）と浜田聡事務所での約４年半の秘書業務から見える裏側や体験記をつづったものである。本書では、公設秘書として長年お世話になった感謝の意を込めて、立花孝志氏を「立花さん」、浜田聡氏を「浜田さん」と呼ぶことにする。立花孝志が怖いと思う人、浜田聡がすごいと思う人、「ＮＨＫ党って結局何だったの？」と思う人は必見である。

２０２６年11月８日　村上ゆかり

目次

序章　私はいかにしてＮＨＫ党秘書となったか　3

第1章
公設秘書かく闘えり　15

「ＮＨＫから国民を守る党」というワンイシュー政党の誕生　16
「国会議員やめます！」突然の立花孝志辞職宣言、参院埼玉補選に立候補　21
浜田さん繰り上げ当選後に起きた秘書交代　22
浜田さんが私に期待した秘書の仕事とは　25
自由という名の無法地帯　35
立花さんと浜田さんの行動は全くつながっていない　40

第2章
立花孝志のＮＨＫとの闘い　43

立花孝志は政治家 YouTuber　44
「立花孝志以外はみんな馬鹿」　49

なぜ政治家として私人逮捕を行うのか 53
選挙妨害は知る権利と民主主義そのものへの攻撃だ 57
立花孝志といえば裁判 62
ＮＨＫの何が問題だったのか――集金人・委託法人問題 62
ＮＨＫ受信料は問題だらけの制度 67
矛盾だらけの割増金制度 73
ＮＨＫ党コールセンターの設置とＮＨＫ撃退シールの配布 78
ＮＨＫ会長の自宅をあえて夜間訪問 80
ＮＨＫ訪問員の減少と揺らぐ受信料制度 83
「緑なき島」問題が象徴するもの 86
ＮＨＫのコールセンターと化したＮＨＫ党コールセンター 88
ＮＨＫに対する質問状の送付 92
ＮＨＫ党の問題提起の結果、ＮＨＫ制度は改善しつつある 94

第3章 立花孝志の革新的な選挙戦略 97
立花さんといえば〝選挙〟 98

「弁護士法第72条違反」を認知させるための党名変更 102
党名変更はＮＨＫ党の名物 106
諸派党構想――制度を活用して少数派にも政治参加を 116
「ルールの中で、ルールの限界まで挑戦する」という思想 122
２０２１年衆院選――前例のない政見放送準備 123
過酷な政策アンケート対応 125
続々と増える問い合わせ 128
番組出演依頼の嵐とメディア問い合わせの激増 130
公示直前および公示後（選挙期間中） 132
異例の追加マニフェスト発表 134
怒濤の選挙が終わりを迎える 138

第4章 浜田聡の政治活動と議員秘書の仕事 141

浜田さんは自由が大好き 143
業務指示どころか会話もほぼなかった就任当初 146
国会議員の権限を国民にひらく――諸派党構想・政治版 147

議員事務所に入るさまざまな相談 158
浜田事務所への相談で政治が動く 162
「レジ袋有料化」の実態 162
ＰＴＡ強制加入問題と「声を拾う」ことの意味 168
「国民が政治に参加する状態」を当たり前に 172

第5章 立花孝志と浜田聡の取扱説明書 175

立花さんの取扱説明書：❶嘘はつくな 177
❷立花さんの言動を信じるな 180
❸立花さんに自分の意見を押し付けるな 184
❹立花さんに秘密をしゃべるな 187
❺仲良くなったら家族扱いされる 189
浜田さんの取扱説明書：❶自由を認めろ 190
❷ＳＮＳのコミュニケーションを駆使しろ 195
❸人と話すのが意外と好き 199
❹すべて公開される覚悟を持て 203

❺挑戦者であれ 207
❻仁義を守り、誠実であれ 209

第6章 激動の後半戦 213
本命の選挙・2022年参院選 214
N－1グランプリの開催 215
ガーシーさんの参院選擁立と当選 223
浜田事務所の公務が激増 226
ガーシー議員の除名 230
政治家女子48党と新党首誕生、代表権騒動 234
類例のない政党法人の破産 241

第7章 復帰・再選をかけた参議院選挙 247
東京都知事選2024――立花孝志といえば東京都知事選 248
ポスタージャック戦略 250

選挙ポスターは不公平 252
兵庫県知事騒動への関与 260
ＮＨＫ党で初めに関心を寄せたのは浜田聡 263
兵庫県知事選へ出馬したのはなぜか 265
兵庫県知事選挙戦に突入 266
齋藤知事の再選 270
選挙後も続く係争 271
兵庫県知事選挙の波を活かしたい 274
参院選前の最後の通常国会 276
村上が秘書を辞める騒動 291

おわりに　ＮＨＫ党、浜田聡事務所を振り返って 298
秘書として得たもの 298
立花さんが逮捕されたのは自然な流れ 301
浜田聡参議院議員は立花さんの功績の一つ 306
ＮＨＫ党はどうなるのか 307

次世代による次世代のための

武器としての教養
星海社新書

星海社新書は、困難な時代にあっても前向きに自分の人生を切り開いていこうとする次世代の人間に向けて、ここに創刊いたします。本の力を思いきり信じて、**みなさんと一緒に新しい時代の新しい価値観を創っていきたい。若い力で、世界を変えていきたいのです。**

本には、その力があります。読者であるあなたが、そこから何かを読み取り、それを自らの血肉にすることができれば、一冊の本の存在によって、あなたの人生は一瞬にして変わってしまうでしょう。**思考が変われば行動が変わり、行動が変われば生き方が変わります。**著者をはじめ、本作りに関わる多くの人の想いがそのまま形となった、文化的遺伝子としての本には、大げさではなく、それだけの力が宿っていると思うのです。

沈下していく地盤の上で、他のみんなと一緒に身動きが取れないまま、大きな穴へと落ちていくのか？　それとも、重力に逆らって立ち上がり、前を向いて最前線で戦っていくことを選ぶのか？

星海社新書の目的は、**戦うことを選んだ次世代の仲間たちに「武器としての教養」をくばることです。**知的好奇心を満たすだけでなく、自らの力で未来を切り開いていくための〝武器〟としても使える知のかたちを、シリーズとしてまとめていきたいと思います。

2011年9月

星海社新書初代編集長　柿内芳文

SEIKAISHA
SHINSHO